

広報 いずも

第37号 平成18年(2006)9月28日発行

社会福祉協議会による要援護者支援の訓練



大社地域では救出用器材などを保管した「安心・安全ステーション」を設置。住民代表が実際に器材を使って互助救助訓練を行いました



「消火器を使うのは初めて」と言いながら、的めがけて水をかける児童(防災機器体験)

住民「パワー」で防災・減災

出雲市防災訓練を実施



水害時に効果を発揮する土のう積み訓練(大社消防団・出雲消防団)

9月1日、荒木小学校校庭で、出雲市防災訓練を実施しました。今年は「大規模地震の発生」「豪雨による土砂災害や水害」を想定した2部構成で行いました。

特に、平成18年7月豪雨災害の経験を生かすため、荒木地区の皆さんが実際に避難を行い、避難誘導や情報収集、応援要請などの訓練を実施しました。

参加した30団体、総勢800人は、きびきびとした動作で的確な救助などが行えるよう手順を再確認しました。

また、平成18年7月豪雨災害の対応状況や教訓を話し合う出雲市防災会議(臨時)を8月11日に開催。今回の災害の教訓を踏まえ、避難や地区の災害対策組織のあり方について、今後の方針を確認しました。(左下に教訓の一部を紹介しています)

平成18年7月豪雨災害の教訓

～8月11日『出雲市防災会議(臨時)』から～

- 市は事前に『避難準備情報』を出し、市民の皆さんの早めの準備や情報収集を促します
- 地区災害対策本部など地区の災害対策組織の拡充を図ります
- 避難場所・避難経路を総点検し、災害や地域の状況に応じた避難体制をとれるよう見直します

目次

市政フォーラム報告(1)	2～3
ファミリーサポート制度	4
いずものスポーツ	10
お知らせコーナー	12～14
10月の相談	15